



万博記念公園でのマラソン大会に遙学園の小学生チームの1区を任された和希くん

感謝

水 上 の 友

発行 社会福祉法人
大阪水上隣保館
〒618-0001
大阪府三島郡島本町
山崎5丁目3-18
発行人 水 本 行 彦
編集 広報委員会
法人事務局 075-961-0711
F A X 075-961-1144
<http://www.osakasujorinpokan.com/>
印刷所 (有)木村桂文社

たくさんの人との出会い

和希

私は、五歳の時に遙学園にきました。父母と離れた淋しさは今でも覚えています。しかし、私よりも先に遙に入所していた兄たちがいたことで、不安が和らいだことも覚えていてます。

遙で過ごした十年間を振り返ると、楽しかったことばかりが浮かびます。春のさくらバザーに夏のキャンプ、秋には運動会、冬のクリスマス会。行事だけでなく、一緒に過ごした友だちや先生たちのことも覚えていてます。公園に一緒に遊びに行き、先生も楽しそうにしてくれていた笑顔が印象深く覚えていてます。叱られたこともありましたが、楽しい思い出ばかりです。

遙での生活も楽しかったのですが、私は家族と過ごせる時間を求めています。中学生になると自分で外泊に行くこともできるので、週末になるのを楽しみにしていました。

受験生になり、私は家から高校に通

二〇二四年標語

愛によって互いに仕えなさい

— ガラテヤの信徒への手紙 五章一三節 —

う進路を選びました。やっと家族と暮らせるという喜びと、これまで一緒に過ごしてきた遙や学校の友だち、先生たちと離れてしまう淋しさの半々を抱えながら決めた進路でした。

遙を退所してからは、長兄はすでに家から自立していたので、父母と次兄と私の四人での生活が始まりました。

しかし、父母のケンカが絶えず、私が高校二年の夏に、母が「ちよっと病院に行ってくる」と言ったら帰ってきませんでした。残された父と次兄と私の生活の中、なんとか高校を卒業し私が介護の仕事に就いてすぐに、今度は父が「仕事に行ってくる」と出て行ったら帰ってきませんでした。

私は知らなかったのですが、父はギャングルで借金があり、次兄は父に給与を渡していたそうです。何のために働いているのか分からなくなってしまうた次兄は、父が出て行ったのと同じ頃に会社を辞めて家に引きこもるようになりまして。そこからは、長兄の力も借りながら、家賃や生活費などを私が支えていきました。

介護を希望して就職したわけではなかったのですが、働きながらヘルパーの資格を取るために講習を受けていました。当初は入居者の汚物の世話などが辛く、仕事にも慣れずかといって家に帰って

も大変という日々でした。

今は、次兄も社会支援制度を受けながら生活し、私も一人暮らしを始めました。仕事も三年目に入り、人生の先輩である入居者さんたちと関われる仕事、とても楽しいです。

二〇二三年の一月に、遙であった成人の集いに出席しました。そこで、退所後の生活の話をしました。辛い気持ちには決して消えませんが、遙の思い出や自分も大変だったろうに支えてくれた長兄への感謝の気持ちが自然と溢れてきて、みんなに話を聞いてもらえました。（遙学園 二〇一八年卒園）

クリスマス

おめでとーございます



後ろのものを忘れ、前のものに全身を向けつつ、神がキリスト・イエスによって上に召して、お与えになる賞を得るために、目標を目指してひたすら走ることです。

— フィリピの信徒への手紙 三章一三〜一四節 —

二〇二二年生まれの藤井聡太竜王・名人が八冠の偉業を達成しました。全冠達成の先輩羽生九段は、「継続した努力と卓越したセンス・モチベーション・体力そして時の運」との言葉で祝福。私たちを前向きに励ましてくれる明るい話題に感謝します。

社会福祉法人 大阪水上隣保館

みんなの広場

そらたん



カット絵・小四 女子

新年・冬の俳句

新年は 絶対来るよ 幸せが

(小六 男子)

冬の夜 北斗七星 きれいだな

(小五 男子)

お年玉 友達と遊び すぐ消えた

(中三 女子)

夢

ドラえもんがいる世界に行って、ドラえもんと一緒に歌が歌いたいです。

(小二 男子)

将来の夢は、優しい人になりたいです。もし、だれかがこけたら「だいじょうぶ」と声をかけてあげる人になりたいです。

(小三 男子)

翼 五周年感想

船でやるBBQや、みんなでピンコゲームして楽しかったよ。景色がきれいだった。

(小六 男子)

クイズがたのしかった。ごはんもおいしかった。

(小四 女子)

そらたん

そらたんは世界を包んでくれそう。

(小五 男子)

翼にぴったりだと思う。(小六 男子)

『おかえり』

高校生になってから、バイトを始めて一年がたちました。

はじめは、施設のお小遣いだけではお金が足りないから、バイトをしてお金が欲しいという目的でした。しかし、バイト先の仲間から「頑張ったね」「お疲れ様」と声を掛けられ嬉しく思い、今では忙しく働くことにもやりがいを感じています。ただお金のために働くのではなく、人間関係を大事にしながら働く社会勉強ができています。

そして、施設の門限を過ぎて、叱られることもあります。帰ってきたら「おかえり」と待っていてくれる人がいる大切な場所だということも感じています。いつも、ありがとうございます。

(高一 女子)



▼三月に、定年退職しました。退職金からわずかですが、寄付させていたいただきました。お便りの「乳児院」のあかちゃんと先生が、うつぶせで楽しそうに絵本を読んでいる写真に、思わず笑顔になりました。「たっぶり、幸せいっぱい」のひとコマ「これからたくさんたくさんありますように」

(山口県岩国市 清水由佳利)

▼電車から見える赤い屋根の水上隣保館が、こんなに多くの施設を有し、それぞれが立派に運営されていることに敬意を表します。今後ますます地域に根差した施設として発展されることを祈ります。(大阪府高槻市 中村昭代)

▼「水上の友」ありがとうございます。いい人と出会える星を持っていることを読ませていただきました。その一番星はオカンだったんですね。本当に良い出会いがたくさんあり、星のようにキラキラ輝いている素敵な女性だからだと思います。オカンを大切にしてくださいね。世界中の子どもたちに良い出会いがありますように。世界が平和でありますように。

(島根県出雲市 三上富士子)

▼翼開設五周年おめでとうございます

翼におやつを作りに行き始めたのはコロナ前でした。これまでに、おはぎやずんだ餅、クリスマスケーキなどを子どもたちと一緒に作ってきました。

作ったお菓子を食べ、その後は絵本を読んだり、なぞなぞをしたりと私の方が子どもたちに遊んでもらっている感じで、一緒に楽しんでいます。

今年四月からは、地域のお寺の本堂を子どもたちの遊び場として開放してもらい、大学生なども含めた大人十人ぐらいが、持参したおもちゃやお寺にある将棋や囲碁、百人一首でのんびりと遊んでいます。

翼の子どもたちに関心を寄せている大人が少なからずいることもわかり、一人ではできなくても、力を合わせたら何か形を作って応援していけるかもしれないと思っています。翼との出会いのおかげで、子どもたちのエネルギーに触れること、関わる人々との出会いが広がるなど、たくさんものを頂いています。(大阪府豊中市 西村寿子)

計 報

加藤 曜子さん

(二〇二三年十月三日召天)

法人評議員 児童虐待の専門家としてアドバイスを頂きました。

御霊の上に神様からの祝福が豊かにありますように、お祈り致します。

児童養護施設

遙 学 園

釜ヶ崎への炊き出し

前回は高校生プロジェクトを取り上げましたが、今回も活動のご報告をしたいと思います。

今回は、西成区萩之茶屋南公園（通称、三角公園）で定期的に実施されている炊き出しに参加してきました。参加する前に、子どもたちには炊き出しに並んでいる人たちは、どういった生活をしているのか、生活保護とはどういった制度なのか、炊き出しを定期的に実施されている団体の取り組みや、今回の活動内容などの説明を職員から行いました。

一時間ほどの活動の中、最初は戸惑いも見られた子どもたちでしたが、炊き出しを配る役割を女の子たちが、公園の清掃を男の子たちが担い黙々と取り組んでいました。

女の子たちは最初はぎこちなく配っていました。慣れてくると「美味しいですよ」「熱いので気を付けてください」と声をかけながら配っていました。男の子たちは、公園の清掃を黙々とする子や、列に並び人と話をするなどの交流を持つ子どももいました。

終了後、炊き出しの豚キムチ丼も少し食べさせてもらい、ボランティア団体の方々と一緒に集合写真を撮って解

散となりました。

高校生プロジェクトの様子は、担当者が毎回壁新聞として作成し、事務所玄関に掲示しています。

一人の高校生男子が、その壁新聞を熱心に見ていたので、参加した感想を聞いてみると「正直な、雰囲気にあっとうされて、最初はしんどかったわ。終わりに豚キムチ丼も食べさせてはもらったけど、食べたくなって気持ちにはなかなかならなかったわ。でも、こういう活動を定期的に行っている人がいて、ご飯を待っている人がいるのをただ見かけるんじゃないって、手伝って知れたことはいい経験になったと思った」と話してくれました。

島本町内のグラウンドの草抜きなどの施設への依頼も入り始めており、地元にも貢献できる高校生プロジェクトチームになるよう目指します。

（副施設長 濱口京子）



児童養護施設

翼（つばさ）

五周年のお祝い

今年、翼は開設から五周年を迎えました。そこで、若手職員を中心に、子どもたちと一緒に祝いする機会と、ご支援者や地域の方々、関係機関にも記念品をお配りしようと、起案・計画を進めていきました。

お祝いするにあたり、職員も経験したことがないようなことを、子どもたちと初体験し、新たな思い出を一緒に作りたいという思いから、屋形船に乗って食事をし、レクリエーションをすることになりました。

まずは、この五年間の歩みをスлайドショーで流すと、自分の幼い頃の姿が流れて、喜び子ども、少し照れくさそうにしながら見ている子どもなど様々な表情を見ることができました。

続いて、レクリエーションでは、ゲームを通して、子どもたちにフロアを超えて職員を知ってもらおうと、職員あてゲームを行いました。知らなかった職員の一面を知ることができた子どもたちは大盛り上がりしました。普段関りの少ない他のフロア職員とも、一緒にご飯を食べたり話したり、交流が生まれ、当日だけでなく、その後も声を掛け合うようになりました。

五周年の記念品は、翼のオリジナル

マスコットの『そらたん』がデザインされたボールペンを作成し支援者や関係機関、地域の方々にお配りしました。

『そらたん』には様々な思いが込められており、これから成長するヒヨコをモチーフに、愛情をたくさん受け、大地を大きくジャンプできるようにスニーカーには翼が生え、お腹のピンクのバンドは子どもを包み込む温かさをイメージしています。

キャラクターの名前は、たくさん集まった候補の中から選ばれました。子どもたちもとても気に入っている『そらたん』です。（今回のみんなの広場のカット絵は翼の小学四年生女子の二人が描いてくれた『そらたん』です。）これからも、子どもたちの楽しい気持ちも悲しい気持ちも、受け止めていける施設としてがんばっていきます。

（児童指導員 荻野あかね）



児童心理治療施設

ひびき

ヨガ教室

中高生の女の子を対象に、大学の心理学の先生を招いて、ゆりの礼拝堂でヨガ教室をひと月に一回実施しています。

以前、『水上の友（一四一）』で分園型小規模グループケアを紹介させていただいた際に、ひびきの子どもたちの心の傷つきの深さを記述しました。ヨガには、①心が落ち着く②集中力強化③ダイエット効果や体の歪み矯正④不眠改善⑤ホルモンバランスの調整、といった心や身体にとって良い効果が多くあるそうです。傷ついた子どもたちが、恐怖を感じることなく取り組み感覚運動なので、ひびきの子どもたちにはとても効果的です。

子どもたちはヨガを楽しんでおり、身体が柔らかい子も多いので、習得するのがとても早いです。私も参加していますが、凝り固まった身体には負担が重く、ポーズができず倒れ、体勢をキープできないといった悲惨な状態になってしまいます。そんな私を横目に子どもたちは静かに集中しています。子どもたちも倒れてしまうようなこともありますが、諦めずに一生懸命取り組んでいます。最後に、瞑想をして自分の身体に意識を集中させて終了です。



(副施設長 幸嶋成幸)

普段動かすことのない身体の使い方をするので、目を覚ました後の爽快感が子どもたちにはあるようで「次はいつ?」「何日にやるん?」と心理学の先生とのヨガ教室の日程調整を催促しています。

子どもたちがヨガに積極的に取り組んでくれており、自分の部屋でも取り組めるようにと個別のマットも購入しました。軌道に乗れば、ひと月に二回くらいのペースにしたいと思っています。また、女の子だけでなく、筋肉を使った男の子向けのプログラムもあるそうなので、対象も広げていきたいと考えています。

ヨガ教室を通して、子どもたちの心の安定や集中する力を伸ばし、私も無事に体勢をキープできるように、健康的に身体を動かしながら、一緒に取り組んでいきたいと思っています。

乳 児 院

大規模改装工事完了のご報告

国の施策として、乳児院の子どもたちにおいても、できるだけ家庭的な養育環境が望まれています。その環境整備として、二〇二三年の十月に小規模ユニットにすべく、大規模改装工事が始まりました。

それに伴い、子どもたちの生活スペースは遙学園の六階へ一時的にお引越しとなりました。生活や事務所、調理それぞれスペースが点在するかたちになり、職員もすれ違ってしまう体制になり、子どもたちも間借り生活の間は、集団での生活となってしました。

こうした様々な苦勞の半年間を乗り越え、二〇二三年五月三十一日に大規模改装が完成。六月二十九日に新しくなった乳児院に皆で戻ってくることでできました。

外観からの大きな変化は見られませんが、玄関から中に入ると廊下に面して独立したユニットの入り口が四つ並んでいます。それぞれにトイレ、お風呂、キッチンが整備されていて、職員の思いの込もった家具が配置されています。

環境が大きく変わったことで、いくつかの変化もさっそく現れてきました。その一つに、これまでの乳児院のお風

呂場は大きな浴槽があり、入浴時は職員は服のままの入浴介助が中心となっていました。しかし新しい家庭サイズのお風呂場になったことで、子どもたちの方から「一緒に入ろう」と声をかけてきてくれ、裸の付き合ひが増えてきています。

もう一つは、集団での生活ではなかなか落ち着きが見られなかった子どもが、ユニットに移り、少人数での生活の中で、穏やかに過ごすことができています。

このような変化への気づきや子どもたちからの発信を受け止め、安心できる大人との関係性が深めていけるよう、職員の養育の力も引き続き伸ばしていきたいと思っています。

皆様に、大規模改装が無事に完成し、小規模ユニットとしてスタートしていることをご報告でき嬉しく思います。

(乳児院院長 丸谷邦江)



特別養護老人ホーム

弥栄の郷 (やえのさと)



素敵な空間を皆様と一緒に

三年ぶりの敬老祝賀会は、現在施設最高齢の入居者（この方のお母様は弥栄の郷創立最初の入居者）が、くす玉を割ってくださり華やかに開会。

ご家族と共に、コロナの事をちよつとでも忘れて楽しい時間を過ごして頂きたく、遙学園の子どもたちによるブラスバンドの演奏や、杉本施設長と職員によるギターの弾き語り、二人羽織やカラオケ大会と盛りだくさんの演目で賑やかな祝賀会となりました。

近い距離でご家族とお話しされる入居者の皆様の笑顔を見て、私たちもとても暖かい気持ちになりました。

今回を機に少しずつ前に進み、活気を取り戻していきたいと思います。

（介護職員 吉原大樹）

障害者自立支援拠点

レモンテラス



囲碁教室やってます

今春から囲碁教室が開かれています。毎週金曜日になると、子どもたちを中心に大勢が食堂に集まり、和やかに対局を楽しんでいます。

講師は黒川前理事長です。『囲碁教育研究会』の一人として長年障がいのある子どもたちを指導し「囲碁は人間教育」と言われています。

はじめ「難しい・・・」と消極的だったAくんは、教わる中で徐々に理解が深まり上達していききました。障がいの特性上、苦手な「相手をよく見る」と「先を読む」ことも少しずつ学んでいます。挨拶や片付けができるようになった子もいます。みんなの今後の成長が楽しみです。

（支援員 永田優子）

大阪保育福祉専門学校



『キャンパス・オリープ』と一緒に！

日ごろお世話になっている社会福祉法人わかくさ福祉会と、北摂の支援学校の先生やPTAの皆さんから「障がいのある若者の学びの場を作りたい」との申し出がありました。

そこで、二〇二二年四月からNPO法人オリープが運営する自立訓練の事業所『キャンパス・オリープ』が校内で開所されることとなりました。

授業は主に記念館で行われ、様々な障がいのある学生が通っています。H O S E N の学生と一緒にクリスマスリースを手作りするなど、交流授業も多く実施され、学生が共に学び合う、他校では得難い出会いの場が与えられることを嬉しく思います。

（副校長 植田彌生）

山崎幼稚園



安全に、安心して預けられる園に

昨年度『バス送迎安全管理マニュアル』を見直し、園バスがより安全に運行できるように努めるとともに、今年七月末からは『車内点検サポーターシステム』を導入。園児の置き去り防止を徹底しています。

また、セキュリティ強化として、玄関にカードタッチの機械を設置し、保護者の方々にICカードをお持ちいただきました。その他にも園と保護者の連絡手段の一つとして、アプリを導入し、園児の欠席確認・預かり保育の利用の管理もするようにもなりました。

引き続き、保護者が安心できる園として、職員一丸となって何よりも子どもたちの命を守っていくことを心がけていきます。

（幼稚園教諭 磨 理沙）

山崎保育園



“ジャイアンリサイタル”

常に面白いことを思いつき、周りを笑顔にする年長のAちゃんとBくん。ある日「明日『ジャイアンリサイタル』をするので見に来てください」と、クラスの皆に手作りチケットが配られました。翌日、チケットを買った子どもたちが廊下で待っている、「お待ちせしました。チケット拝見します」とオーブン。手作りの舞台の前に三角座りをして目を輝かせているお客さん。みんなの前に立った二人は手作りマイクを握り、歌を歌ったり一発ギャグをしたりしていますが、瞳の奥は真剣です。「めっちゃ面白い」「かっこいい」と盛況で幕を閉じ、クラスを一段と明るくしてくれました。

(保育士 鈴木祐夏)

認定こども園
藤の里保育園

お菓子も非常食になるよ

地震や台風などの自然災害が増える今、藤の里保育園でも非常食の準備をしています。そこで、五歳児を対象に非常食について考える食育活動をしました。非常食を選ぶポイント①賞味期限が長い②常温保存ができる③水だけで調理できる④温めずに食べられるといった点です。実際にどんな非常食があるのかを見てもうと「チョコも非常食になるんや」「缶に入ったパンはそのまま食べるん？」など次々と思っただことを話していました。

活動の最後には、温めずに食べられる力レーを試食しました。「おいしい」「おかわり」など楽しみながらも大切な学びの場が持てました。

(栄養士 松下美佳)

里親支援機関
おひさま

ラッピングバスで広報活動

枚方市でおひさまが始動してから五年が経ち、里親さんや子どもたちへの支援を中心に、里親委託の推進に向けた活動として講演会や個別相談、研修事業などを幅広く担うようになっていきます。

支援する里親家庭も徐々に多くなっていますが、社会的養護の施設がない枚方市周辺地域では、里親制度自体を地域全体に広報していくことの大切さを実感しています。そこで、枚方市周辺で運行している京阪バスや近鉄バスの数台に、ラッピング広告を出しています。何度か目にすることで、里親を身近な制度として感じてもらえる機会になればと思っています。

(里親支援専門相談員 木内さくら)

ファミリーポートサブリ村野



公園へのおでかけ

施設を飛び出し、近隣の公園へおでかけすることがあります。公園ではかけっこやボール遊び、どんぐり拾いなどの外遊びを楽しみます。子どもたちが、元気いっぱい遊び、一方で、子育て中の保護者同士が、自然と集まって出会うきっかけにもなっています。

『子育てひろばさぷり』に集まって遊ぶ時とは違って、公園では広々と空間を使って伸び伸びと過ごしています。そういった様子を保護者も子育て仲間と一緒に見守り、話せる場をこれからも作っていく、みなさんが参加しやすいように、おたよりやリーフレットでも発信し、広げていきたいと思っています。

(副センター長 本城理恵)

社会福祉法人 大阪水上隣保館 [児童福祉 92 年]

大阪保育福祉専門学校

〒618-0001 大阪府三島郡島本町山崎5-3-10 TEL.075-962-1115 FAX.075-962-9001



山崎幼稚園



専門学校・本館・オリーブ館



専門学校・中村記念館



児童養護施設 進学園



児童養護施設 翼 (豊中市)



児童心理治療施設 ひびき



山崎保育園

つどいの広場 (子育て支援)
ばんだのいえ (島本町)障害者自立支援拠点
レモンテラス (島本町)

さくら館

認定こども園 藤の里保育園
(高槻市)ファミリーポート かつき
(高槻市)

緑豊かな丘陵部に
創設者の思いがつながる
子どもと専門学校・高齢者・障害者の施設が立ち並んでいます

法人敷地内に、
大阪と京都の府境界があり、
建物によっては
大阪府だったり京都府だったり。
大阪からも京都からも
とても便利なところです！



大阪水上隣保館 乳児院



地域交流センター・ゆりの礼拝堂



特別養護老人ホーム 弥栄の郷

大阪水上隣保館 附属診療所
さくらクリニック (島本町)子ども家庭支援センター
ファミリーポート ひらかた (枚方市)ファミリーポート サプリ村野
(枚方市)里親支援機関 おひさま
(枚方市)

豊かな自然環境の中でキリスト教の愛の精神に基づいた人格形成をします

山 崎 幼 稚 園

〒618-0001 大阪府三島郡島本町山崎5-3-1 TEL.075-961-3341 FAX.075-961-7296
ホームページ www.yamazaki-k.ed.jp